**吹奏楽指導におけるハラスメント【概要】**

愛知県吹奏楽連盟

**１．ハラスメントとは**

（１）ハラスメントの種類

ハラスメントとは、他の人に対して肉体的・精神的な苦痛や不快感などを与え、相手の人権や尊厳を行為。「嫌がらせ」や「いじめ」

①**セクシャル・ハラスメント**（セクハラ、性的いやがらせ）

◎「**対価型セクハラ**」：女性にお茶くみなど、立場や上下関係を利用して何らかの言動を強要。

◎「**環境型セクハラ**」：しつこくデートに誘うなど、受け入れがたい性的な言動の繰り返し。

②**パワーハラスメント**：「できないやつ」など、地位や優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える。

③その他のハラスメント

◎**アルコールハラスメント**：飲酒の強要。

◎**スメルハラスメント**：口臭や体臭、香水等のにおいによる不快な気持ちにさせるハラスメント。

（２）吹奏楽指導者におけるハラスメント

吹奏楽指導は、指導する側に熱が入ってしまい、知らず知らずのうちにハラスメントになっていることがあります。指導者の意図にかかわらず、**生徒等が苦痛を感じたら、「ハラスメント」**です。

**２．ハラスメントの実態**

（１）吹奏楽指導者によるハラスメント

①**体罰**（物理的ハラスメント）

**殴る，蹴る、頭をこづく、頬を叩く**などに加え、**椅子を蹴る、靴を壁に投げる**などの行為

②**ひいきや罵倒**など（精神的ハラスメント）

人権や尊厳を冒瀆する発言、自信・自尊心を損なう発言、無視、特定の生徒だけを褒める（ひいき）行為。過剰な叱責や不必要な大声、「へたくそ」「やめちまえ」などの放棄的な言葉

③**不適切な活動内容**の設定

発育段階を無視した、**過度な練習の強要**（**長時間**の拘束、**特定の練習の連続**など）、不適切な条件での練習（**炎天下**での練習、**休憩をとらせない**など）

（２）指導者以外によるハラスメント

**指導者の影響を受け**、技術の劣るメンバーを叱責したり、見下したりするなど、生徒たち（いじめ）、保護者（虐待）等もハラスメントの加害者になり得ます。

**３．ハラスメントが吹奏楽活動運営・指導・生徒の心身に与える影響**

・生徒の行動が萎縮的になり、指示待ちなどの消極的な態度になる。

・「バーンハウト」（燃え尽き症候群）につながる。

・人目を気にする等の対人不安となる。

・積極性や自己肯定感を失う。

・団員同士のいじめにつながりやすい。

・活動での嫌な体験が不登校につながる。

**4．吹奏楽指導でのハラスメント発生要因**

（１）**勝利至上主義**

コンクール等で勝ちたいと思うあまり、「より良い結果を出すためには、厳しい指導が必要」と指導者が思い込んでしまう傾向があります。また、結果が尊敬され、生徒や保護者もこの考えに陥りやすいものです。技量の低い生徒やミスをした生徒を過度に叱責したり冷遇したりしないことが大切です。

（２）**努力信仰**

「努力信仰」、つまり、努力すれば何でも叶うと信じてしまうことです。しかし、「練習しなければできない」は正しいですが、「たくさん練習したらできるようになる」と同じではありません。練習量が多ければ多いほど結果が良いわけではないことは科学的に証明されています。

（３）吹奏楽活動の特質

集団で一つの音楽を創り上げる吹奏楽活動は、時として指導者が集団全体をコントロールしがちです。**技量向上を即効的に求めるあまり、ハラスメントが起こる**こともあります。

（４）**指導者のストレス**

指導者本人のストレスや疲労感も、ハラスメント発生に大きく関係します。人間ですから感情が行動に現れてしまうこともあります。自分自身の心身の調子をしっかり整えるように心がけましょう。

**５．吹奏楽指導でのハラスメント予防**

（１）勝利至上主義から人間性形成への転換

「うちのクラブは、全国大会に出場しているから、練習時間が長くても、厳しくても当たり前のことだ」という発想が、「強いクラブは練習が長く、厳しいものだ」というメッセージを発信することになります。ハラスメントの予防には、勝利至上主義から人間性形成という価値観に転換していくことが大切です。

（２）**生徒主体の活動運営**へ

生徒自身が主体的に考え、生徒同士、そして指導者と生徒が協議して練習方法などを考えていくことが大切です。指導者としては、ミーティング開催や、保護者への通信を発行するなど、様々なチャンネルを使って、生徒が主体的・対話的に活動に参加している様子、その効果を伝えていきましょう。

（３）**研修**による最新の知識の獲得

ハラスメントの要因として、指導者自身の過去の部活動経験が影響していることが明らかになっています。経験豊かな指導者こそ、過去の経験による思い込みによるトラブルや生徒との関係の持ち方や指導方法に戸惑いを感じているものです。より多様な生徒を理解するためにも、コーチング、合理的配慮、指導方法などの最新の知見を学べる研修などを定期的に受講することが望ましいでしょう。指導者自身から積極的に興味深い研修を見つけて参加してみてください。知識は武器となり、不必要なハラスメント的対応の防波堤となってくれます。

（４）**指導者の自己理解**

まず指導者自身が自分の特徴を自己理解しておくことがハラスメント防止の第一歩となります。自分の感情とうまく付き合う方法を見つけ、どのような価値傾向にあるのか、どのような性格であるのか、どのようなことがストレス要因となっているのかを客観的に理解しておくとよいでしょう。

（５）指導者や生徒への**サポート体制**

指導者や生徒は誰でも悩みをかかえているものです。困った時に相談できる体制、「相談してもよい」という雰囲気を作っていくことは、指導者、生徒同士、親子間のハラスメントの予防につながります。指導者の皆さんも困ったらぜひ誰かに「相談」してみてください。問題解決の第一歩となります。

４．おわりに

指導者やクラブ員への最大のサポート方法、それは、**吹奏楽活動に関わっている全ての人が「相手のことを認め合う」を実践すること**です。お互いに相手を認め合うことで、自尊感情や自己効力感が生まれてきます。自尊心や自己効力感が高い人は、ハラスメントを起こしにくいのです。指導者からのサポートは生徒間のハラスメントを軽減します。

自尊心や自己効力感を高めるためにも、指導者もクラブ員も含めたお互いの良さを伝えあう吹奏楽活動ノートの活用や肯定的なコメントを伝え合うミーティングの工夫など、人間関係のポジティブな側面を強化する工夫を行ってみてください。